

平成29年度第2回南部地域保健医療・地域医療構想協議会 議事概要

1 日 時 平成30年3月13日(火) 13時30分から15時20分

2 場 所 川口保健所 2階大会議室

3 出席者

・委員(別添のとおり)

委員総数25名 出席21名(うち代理1名) 欠席4名

・事務局

保健医療政策課、川口保健所、川口市立医療センター職員、

・傍聴者

6名

4 議事内容

(1) 第7次埼玉県地域保健医療計画案について

資料1により、保健医療政策課が説明。

【主な質疑等】

・ 人生の最終段階の医療だが、支援するための情報提供・普及啓発は、どのようなことを考えているのか。

本人が意思決定を表明できる段階で、人生の最後にどのような医療を受けたいのかを考える機会や意思表示の支援となるような情報提供や意識啓発などを検討している。

(2) 第7次埼玉県地域保健医療計画における南部保健医療圏圏域別取組案について

資料2により川口保健所が説明。

【主な質疑等】

・ 圏域の基本指標について、人口総数、人口増減率の数値の内容は。

人口総数は、南部保健医療圏のデータ、人口増減率の左側の値は圏域、右側が県全体のデータである。

・ がん予防として禁煙を推進するために、難しいとは思いますが、南部圏域として、独自の施策に取り組めないか。

国では法改正の動きがあり、埼玉県全面禁煙・空間分煙実施施設認証制度を当圏域でも実施している。飲食店では、なかなか進まない現状があるが、法改正が実施されると、県要綱の改正予定がある。圏域独自の施策を進めることは難しい。

・ 学校におけるフッ化物洗口の実施率向上について、県議会でも質疑があったが、県の対応は。

フッ化物洗口の普及については、県健康長寿課で、歯科医師会の協力

も得て取り組んでいる。

- ・ 学校での普及を進めるためには、教育委員会から通知を出してもらうことも有効と思われる。
- ・ 終活について、ネガティブに捉えるのではなく 義務教育段階からの教育が必要なのではないか。

在宅医療を推進する中で、南部圏域で、地域連携看護師会があり、市民を対象に、「元気なうちから老いを考える、自分らしく生きるために」というテーマで、医師会や歯科医師会等の協力を得て、リーフレットを作成しているところ。そのような中で、終活についても、教育・周知を図っていくことが今後の課題と考える。

- ・ 認知症疾患医療センターはどこにあるのか。また、今後認知症の方が増えると思われるが、対応のキャパはどれくらいあるのか。

この圏域では戸田病院に設置している。具体的なキャパを示すことは難しいが、精神科病院だけではなく、在宅で関係機関と共に患者を地域で支えていくということが必要になってくると思われる。

- ・ 認知症対応として、市には支援チームとして医師と看護師が家庭訪問を行い、予防的に診ている。その上で、かかりつけ医さらに認知症疾患医療センターが対応するという体制である。
- ・ 精神医療の立場から、戸田病院の認知症疾患医療センターや川口病院で、地域の中核としての役割を果たし、市民からの期待に応えられようがんばっていききたい。

取組内容の最終決定については、会長、副会長に一任ということで委員の了解を得た。

- (3) 第6次埼玉県地域保健医療計画における南部保健医療圏圏域別取組平成28年度実績について
資料3により川口保健所が報告

- (4) 埼玉県地域医療構想について
資料4、資料5により保健医療政策課が説明

【主な質疑等】

- ・ 前回の協議会の病床機能報告結果との単純比較の資料では、回復期病棟がかなり足りない形であったが、そうでもないことが見えてきたということでのよいのか。

今回の分析で、病床機能報告で急性期と回答いただいた病床でも医療提供内容から見ると回復期寄りの医療を行っている病床が一定数あるということが判明してきた。こうした分析結果を踏まえた上で、回復期が不足しているか充足しているかは、きちんとした議論が必要である。

- ・ 以前、療養病棟等は「必要なし」という国の政策であったが、最近は話題になっていない。制度改正のたびに方向性が変わると病院の体制を維持することが大変である。現状を踏まえたデータを出してもらいたい。
- ・ 南部医療圏の回復期が足りない部分をどうするか。一方、在宅医療を担う開業医が足りているのか、独居老人や老老介護のため在宅で対応出来ない、このような様々な課題に対する対策はあるのか。
 - 回復期病床への転換支援として地域医療介護総合確保基金がある。また南部圏域は、平成37年の必要病床数と現在の既存病床数を比べると少し足りないという結果が出ている。第7次地域保健医療計画の基準病床数はこうした必要病床数を踏まえた数字となっており、南部圏域は6次計画より増加する予定である。このような状況で、この圏域でどのような病床機能を担ってもらえるべきか、医療構想調整会議で議論していただくことが重要である。在宅医療については、別途次回以降の協議会で御説明させていただきたい。
- ・ 基金だけで病床転換を促すことは不十分と感じる。さらに、回復期が足りない、在宅医療の課題について、しっかりとした対応をお願いしたい。
- ・ 老人の急性期については、回復期に該当するのか。
 - 今回のデータの基準は治療の内容で区分している。御質問の例では急性期にカウントされている可能性が高い。
- ・ 4機能分類だけでは足りないのではないのか。
 - 4機能の細分化・類型化も、検討中である。結果については、また報告させていただきたい。

(5) 新公立病院改革プランについて

資料6により川口市立医療センターが説明し、内容について同意

(6) 新型インフルエンザ対策について

資料7により川口保健所が説明

(7) その他

川口市保健所設置に伴い、市保健所長も委員に追加されること等を報告